

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27295 「食」の世界へのいざないーマイクロな世界からみた食資源利用の歴史ー



開催日：平成27年9月6日（日）

実施機関：鹿児島国際大学

(実施場所) (同上)

実施代表者：大西智和

(所属・職名) (国際文化学部・教授)

受講生：中学生8名, 小学5・6年生3名, 高校生1名

関連URL:

【実施内容】

受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

- ・講義では、画像を多用し、動画も用いたスライドを使用し、わかりやすく伝えるよう心がけた。
- ・実験では、実施代表者・実施分担者・協力者ができるだけ受講生と関わるようにして、受講生が自ら活発な活動や発言をするよう心がけた。
- ・実験1では、時間内に圧痕調査と種子類のソーティングおよび同定作業という二つの内容を行った。一つ当たりの実験時間を短くすることで、活発な活動を促すことができたと考えている。
- ・実験2では、事前に作成した土器で薪を使って炊飯調理し、それを食べてみるという体験も取り入れた。また、調理・試食後に、土器使用痕の解説およびディスカッションを行った。これらは研究を理解してもらうことに大いに役立ったと考えている。

当日のスケジュール

9:30～9:50	受付（鹿児島国際大学8号館）
9:50～10:10	開講式（開講式挨拶（大久保副学長）、オリエンテーション、科研費の説明）
10:10～10:50	講義1 「食の世界へのいざない」（講師：大西智和）
10:50～11:00	休憩
11:00～11:40	講義2 「土器の痕跡から調理技術をさぐる」（講師：鐘ヶ江賢二）
11:40～12:10	キャンパスツアー（5号館・フィールドハウス等）
12:10～13:10	昼食・休憩
13:10～14:30	実験1 「土器や土の中からみつけよう」
14:30～14:40	休憩
14:40～16:00	実験2 「土器を使った炊飯調理」
16:00～16:30	クッキータイム・ディスカッション（炊いたお米を食べながら）
16:30～17:00	修了式（アンケート記入、未来博士号授与）
17:00	終了・解散

実施の様子（図、写真等を用いてわかりやすく記入してください）



写真 1 開講式の様子



写真 2 講義 1 の様子



写真 3 実験 1 の様子



写真 4 実験 2 の様子

事務局との協力体制

- ・研究教育開発センターが委託費の管理と支出報告書の作成を行った。また、日本学術振興会への連絡調整と、提出書類の確認及び本事業の受付、保険加入手続き等も行った。
- ・研究教育開発センター、総合企画部入試・広報課及び教務部実習支援課がマスコミ・中学校等を通じた本事業のPR、ポスター等掲示の手配を行った。また、大学ホームページ等の媒体で広報した。
- ・実施代表者および分担者と連携して、近隣の中学校・教育委員会等に呼びかけを行い、本事業をPRした。

広報活動

- ・本事業のポスターやチラシを制作し、市内中学校への郵送、最寄駅や店舗等への掲示などを行い広報に活用した。
- ・実施者（代表者・分担者）および研究教育開発センターが分担して、博物館・図書館や教育委員会および近隣の中学校等を訪問し、本事業について広報した。
- ・総合企画部入試・広報課と連携し、大学の広報誌、ホームページに事業の概要および募集案内を載せた。

安全配慮

- ・夏場の実施のため、講義室では空調の調整に配慮し、学外での実験では、テントを設置して日陰の確保と水分補給に努めた。
- ・実験 1 では、圧痕レプリカの型取りにはシリコンゴムを使用したが、受講生はその取扱いが最小限で

済むよう配慮した。

・実験2では、火気を使用するため、安全確保のために受講生2人に対し1人の割合で実施協力者を配置した。また、消火器や消火用水を準備して不測の事態に備えた。なお、研究教育開発センターから事前に消防署への報告を行った。

・受講生、同伴者及び実施者（代表者・分担者・協力者）全員を当日の傷害保険に加入させた。事務担当者については、大学が加入している保険を適用した。



写真5 ディスカッションの様子



写真6 集合写真

今後の発展性、課題

・土器による調理は、受講生の関心が高かったように思われる。今回は実施者側で土器を事前に製作したが、土器製作をプログラムに取り入れ、受講生が製作した土器を用いて調理実験を行うことができれば、さらに魅力的なプログラムにできると考えている。

・受講生を十分に集めることができなかつた点が最も大きな課題である。実施時期や募集対象などを再検討する必要がある。

【実施分担者】

鐘ヶ江賢二 実習支援課・書記

【実施協力者】 8 名

【事務担当者】

吉野 裕 研究教育開発センター・書記